
人形（ひとかた）

くろぬこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ひとかた
人形

【Nコード】
N9306R

【作者名】
くろぬこ

【あらすじ】
逢魔ヶ時…。宵闇と夕焼けの狭間。

小さな工房の二階で、男は今日も人形を作っている…

逢魔ヶ時…。宵闇と夕焼けの狭間。家路を急ぐもの、夜の街に繰り出すもの。

イロイロな足音の響く街中にその工房がある。古いが趣のあるレンガ造りの小さな家。

壁をはう蔦はバルコニーへと続いている。

西日の入る窓は開かれて、時折風に遊ぶカーテンが、踊るように見え隠れしている。

「さあ：これでいいかな？ ああ！ そうだ。リボンを忘れていたね：何処へやったかな：？」

男はそう呟くと部屋の中を探し回るが、その所作は優雅で、静かである。

「ああ見つけた。そうだね　これを君に用意していたんだった：。忘れていたよ」

そして見つけ出した綺麗な白いレースのリボンを指に絡め、ゆつくりと窓辺に近づく。

その先には十四、五歳の儚げな少女が、シンプルだがセンスのいい白いドレスを纏い質素な白い椅子に静かに腰掛けている。

「髪をとかそう。丁寧だね。とても綺麗だよ」

そういつて男は少女の髪をブラシでゆつくりと丁寧に梳　《と》かし始める。

「結んであげようねきつと似合うよ…」

細い指で髪を両脇から少しだけ梳^すく、器用にくるくると捻^{ひね}って後ろで結ぶ。

そして指でつまんだリボンを結びあげる…。

一連の指の動きは、静かな時間と空間の中で舞い飛ぶ白い蝶のように美しい。

「綺麗だね。とても愛らしい」

そういつて男は少しかがんで少女の背に腕を回す…。

静かだった部屋にキリキリという螺子を巻く音が聞こえる

息を止め何かを待っている男…

静かに目を瞑り眠っているかのようだった少女はゆっくりと小さな口を開け、薄く形のいい唇を動かす。

「あ…。あ、あ」

「おお！聞こえるよ…！なんという愛らしい声だ。焦らなくていいよ。僕の声が聞こえるかい？僕が見えるかな？」

その声に応じてか、少女の静かだった瞼の奥がぐるりと動く。

そしてゆっくりと長い睫を震わせながら瞳を開く。

硝子玉の様に美しいその瞳には、ほんの少し赤い陰りが見える。
ガラスだま

「これは…仕方がないか。すぐに新しい瞳に取り替えてあげようね。エメラルドグリーンの良い硝子玉が売っている店を、知っているんだ。君の綺麗な髪にきつと似合うね」

これでいい。ドレスも、靴も、リボンも、とてもよく似合っているよ。

君にあげる名前をね…考えていたんだ。

新しい名前、新しい服や靴、新しいリボン。

君はこれからたくさん素敵な時間を僕と過ごすんだよ？素敵でしょう。

大きく開かれた瞳から、赤い雫が頬に跡を残しながら流れ伝ってくる。

男は顔をゆがめて軽く舌打ちをする。

「興醒めだよ、喜んでくれると思っていたのに」

そう言う男は、彼女の小さな顔を両手で挟み、両方の親指で彼女

の瞳をグッと押す

「あ」小さく言葉を発した彼女の指先が震える。

力を入れて目玉をくりぬいている男、全て取り出されたとき彼女のその頬も、白いドレスもが赤く染まる…。

「台無しだね、また新しく買ってこなければ」

くりぬかれた目玉は、そのまま蒸留水の入った瓶にいれ、棚に飾られる。

「歯は…どうしようか…。」

形のいい小さな口…。男は彼女の唇に人差し指をあて、もう片方の手で顎を軽く押さえる。

ほんの少し、力を入れるだけですんなりと開く口の中に、真珠の様に白く、可愛らしい歯が行儀良く、きちんと並んでいる。

かがんでそれを覗き込んで見つめる。そして、

「うん。これはこのままでいいかな…。綺麗に揃っているね。とても偉いよ。歯を大切にしてきたご褒美に、小さいクリスタルを埋めてあげよう。そしてその上に綺麗にマニキュアをしなくてはね。

ふふふ、嬉しいかい？待ち遠しいよ、君の緑の目…。」

それから、白い陶磁器のような少女の頬に、流れる血の涙をゆつくりと舌で舐め上げる。

「内臓も取り出そう…。腐る前にね。もう少し楽しんだら、すべて歯車に取り替えよう。ちゃんと、丁寧に作った君用の筒も、しっかりと埋め込んで、具合を確かめたら完成だよ…。君は生まれ、死に、そしてまた僕の手で蘇る。永遠の少女のままです」

「可愛い、アリス…愛しているよ」

逢魔ヶ時…。宵闇と夕焼けの狭間。

小さな工房の二階で、男は今日も人形を作っている…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9306r/>

人形（ひとかた）

2011年10月8日22時01分発行